

**厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書**

外来通院肝疾患患者の「かゆみ」の現状について

研究分担者 室 豊吉 国立病院機構大分医療センター 消化器内科・院長  
研究協力者 山下 勉 国立病院機構大分医療センター 消化器内科医長

**研究要旨** 当院通院中の肝疾患患者の「かゆみ」についてアンケート結果を基に検討した。

**研究協力者**

得丸智子 大分医療センター消化器内科  
梶本展明 大分医療センター消化器内科  
新関 修 大分医療センター消化器内科  
福地聡士 大分医療センター消化器内科

**A．背景と目的**

「かゆみ」は不快な感覚で、その原因には様々なものがある。肝疾患も「かゆみ」の原因となる場合があるが、患者の中で肝疾患と「かゆみ」が結びついていないこともあり、十分な対応ができていないことも多い。今回肝疾患で当院外来通院中の患者の「かゆみ」について聴取し検討を行った。

**B．対象**

H27年11月30日から12月11日の2週間に外来を受診した慢性肝疾患患者86例（表1）。

表1．対象

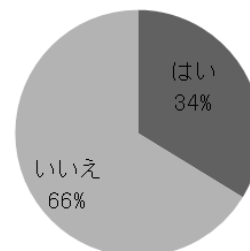
性別(男/女)	42/44
年齢(平均)	66.9
病名	
C型肝炎	23
B型肝炎	21
PBC	5
AIH	12
アルコール	15
脂肪肝	7
その他	3
背景肝(慢性肝炎/肝硬変)	51/35

右のチェックシート（図1）を用いて直接聴取した。

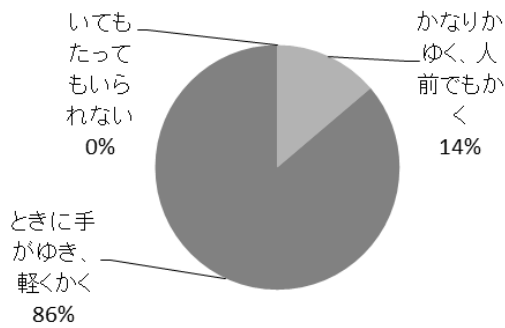
図1．肝臓病によるかゆみチェックシート

**C．研究結果**

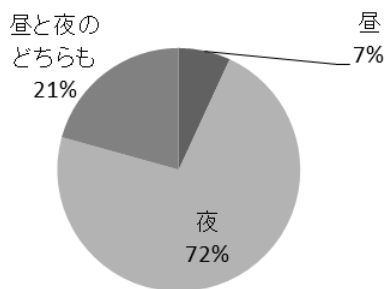
Q1 あなたは現在「かゆみ」を感じることがありますか？



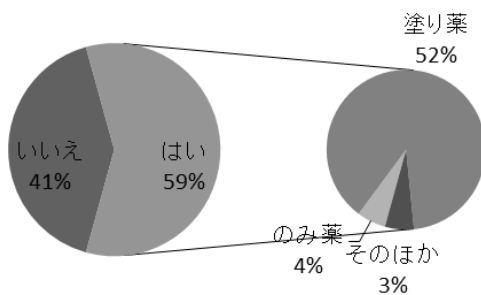
Q2 かゆみの程度はどのくらいですか？



Q3 昼と夜どちらの方がかゆいですか？



Q4 あなたは現在「かゆみ」のお薬を使用していますか？



Q5 「かゆみ」はよくなりますか？

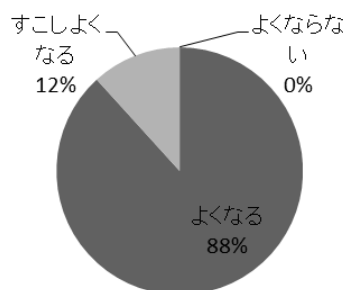


表2に疾患別のかゆみの有無を示す。上のグラフが実数で、下が割合を示している。下のグラフを見ると、やはりPBCにかゆみを自覚している方の割合が多かった。C型肝炎、PBC、AIHは半分以上の方がかゆみを自覚していた。

表2. 疾患別のかゆみの有無

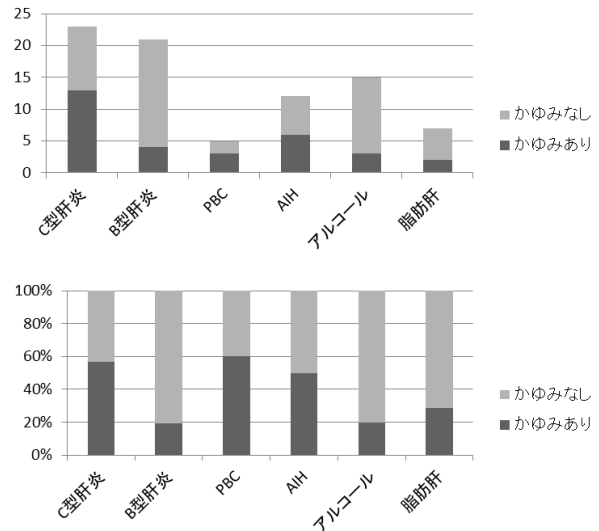


表3に肝炎ウイルスの有無とかゆみの関係を示す。C型肝炎ではウイルスが陽性の方が多く、HCV陽性の方にかゆみが多い傾向であった。B型肝炎は核酸アナログの治療介入によりウイルスがコントロールされている方が多く、ウイルスの有無とかゆみとの関係には明らかな傾向は認められなかった。

表3. 肝炎ウイルスの有無とかゆみの関係

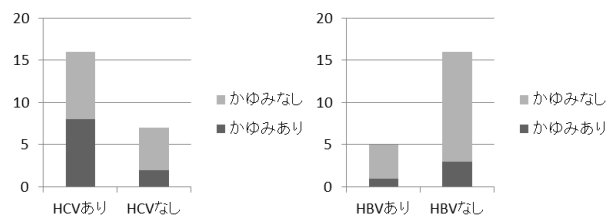


表4はかゆみの有無での比較である。明らかな有意差を認めたものはなかった。しかし、年齢の高い方、利尿剤を内服している方にかゆみを自覚している方が多い傾向にあった。

表4．かゆみの有無での比較

	かゆみあり	かゆみなし	p
例数	29	57	0.15
性(男/女)	11/18	31/26	0.15
年齢	69.7±7.8	65.4±11.1	0.06
肝硬変(あり/なし)	12/17	23/34	0.93
肝細胞癌(あり/なし)	5/24	14/43	0.43
利尿剤(あり/なし)	8/21	7/50	0.06
HCV(あり/なし)	8/2	8/5	0.33
HBV(あり/なし)	3/1	4/13	0.95
T-Bil	1.04±0.83	0.97±0.45	0.83
GPT	27.7±15.3	26.8±16.4	0.28
γGTP	65.4±74.9	76.9±116.5	0.93
ALP	311.3±214.0	285.1±120.4	0.92
血小板	19.8±19.6	16.4±5.8	0.50

#### D．まとめ

慢性肝疾患で通院中の外来患者の34%が「かゆみ」を自覚していた。

「かゆみ」は夜間に感じている方が多かったが、程度は軽度であり、ほとんどが対症療法で改善していた。

PBC、C型肝炎、AIHの患者は半分以上の方が「かゆみ」を自覚していた。

「かゆみ」の有無の比較で有意差を認めたものはなかったが、年齢の高い方や利尿剤を内服している方に多い傾向であった。

#### E．研究発表

なし。

#### F．知的財産権の出願・登録状況

なし。